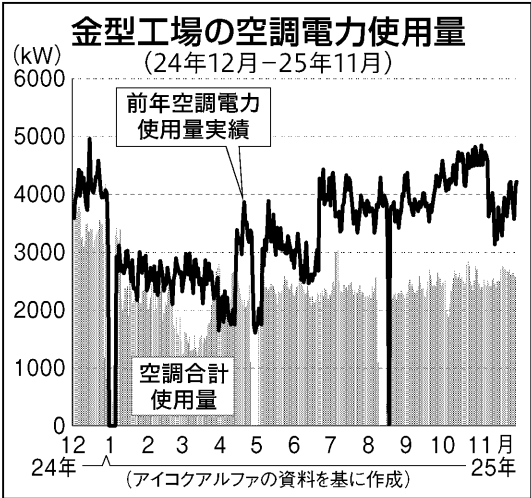




金型工場の空調改善

アイコクアルファ 年40万kW電力削減

【名古屋】アイコクアルファ（愛知県稲沢市、樋田克史社長）が、カーボンニュートラル（CN）、温室効果ガス排出量実質ゼロ）実現に向けた改善活動で着実に成果を出している。精密冷間鍛造品を手がける「CF事業部」では金型工場の空調にかか

る電力使用量を年間40万kW削減し、約164トンの二酸化炭素（CO₂）排出量削減を達成した。CO₂排出量を2030年度に13年度比46％削減する目標に寄与する成果を上げた。

金型工場はマイクロメートル（マイクロは100万分の1）単位の寸法精度が要求される加工を行っており、室内の温度管理が重要。従来は年間を通して空調温度を24度Cに保っていたが、現場にヒアリングを行いながら寸法に影響が出ない範囲で温度管理基準を緩和した。

夏は25度C、冬は23度Cに設定を変え、空調の出力も抑えられたことで電力消費を減らした。このほか、屋根も、生産ラインごとに電力消費を見える化できるシステムも導入。鵜飼氏は「各社員が自らが担当する設備の電力使用状況を把握できれば、改善効果も実感しやすい。CN改善が進むのでは」と期待する。

同事業部ではほかに